2026 年 2 月 1 日　顕現後第 4 主日　マタイ 5:1—12

「幸せな人になる」北川逸英師

今日の聖書箇所は「山上の説教」と呼ばれ、マタイによる福音書の中で、イエスさまが弟子たちに語られた言葉の中でも、特に多くの人に愛されてきた箇所です。

「心の貧しい人」という言葉は、私たちにとても馴染み深いものです。

1880 年、ネイサン・ブラウンが『しんやくぜんしょ』の中で、

マタイ伝福音書第五章三節を

「こゝろ　へりくだる　ものは　さいはひ　なり、

これ　てんの　みくには　かれらの　もの　なれば　なり。」

と訳して以来、文語訳、口語訳、新共同訳そして聖書協会共同訳に

至るまで、「心の貧しい人」という表現が受け継がれてきました。

一方、2011 年にフランシスコ会聖書研究所から出された

『聖書・原文校訂による口語訳』では、

「自分の貧しさを知る人は幸いである。

天の国はその人たちのものである」

と訳されています。

ギリシャ語の原文では、「マカリオイ　ホイ　プトーコイ

トーイ　プネウマティ」——直訳すれば、

「幸いである、その貧しい人々は、霊において」という言葉です。

「霊において貧しい人」とは、どのような人でしょうか。

それは、弱い人、役に立たない人という意味ではありません。

また、もっとへりくだりなさい、という命令でもありません。

イエスさまは、「こうなりなさい」とは言わず、

「こういう人は、すでに幸いだ」と語っておられます。

今年に入ってから、私たちの周りでは、さまざまなことが急に動き、変化についていけず、不安を覚える方も多くおられると思います。

先のことが見えない。これまで出来ていたことが出来なくなった。自分の力では、どうにもならない。そう感じるとき、私たちは「貧しさ」を覚えます。

けれどもイエスさまは、そうした人を見て、「幸いだ」と言われるのです。なぜなら、何も持てなくなった人ほど、神さまの手を、はっきりとつかむことができるからです。

洗礼を受けた私たちは、罪のない人になったわけではありません。むしろ、弱さを抱えたまま、それでも神に支えられて生きる者とされました。

だから私たちは祈ります。「わたしたちの罪をお許しください」と。この祈りは、立派な人の祈りではなく、弱さを知る人の祈りです。

「霊において貧しい人」とは、この祈りを自分の言葉として祈れる人のことです。変化についていけなくても、不安を感じても、出来ないことが増えても、神さまの国から、私たちが外されることはありません。

「天の国は、その人たちのものである」

これは未来の約束ではなく、今、ここに生きる私たちに向けられた言葉です。弱さの中にある私たちは、すでに、神さまの幸いの中に生かされています。これからも私たちは、ともに助け合って、幸せな人たちとして、神を賛美して、互いに愛し合って生きてゆきましょう。

人知では到底計り知ることの出来ない、の平安が、キリスト・イエスに在って、あなたがたの心と思いとを、守られますように。 アーメン